

## 人形劇は世界をつなぐ

### —譚志遠氏が語る、中国の人形劇・日本の人形劇—

譚志遠氏講演、福島達也訳

今日は5年ぶりに日本へ来ました。私が十何年の間、仕事を、修行を、生活をしてきた国、日本。こうして皆さんの前に立つまで、私の心は落ち着きませんでした。さまざまな出来事が目の前に浮かんでいたのです。

有名なりんごの郷飯田—それは世界に知られた人形劇の郷であり、私にとっても忘れられない美しい都市です。

1988年にウニマ国際人形劇フェスティバルに参加をするためはじめて日本に来た時、飯田市を訪れました。90年に人形界の大先輩(人形博士)の宇野小四郎先生に推薦して頂き、現代人形劇センターの招待で6カ国からなる巡回上演グループに参加し、再び飯田市に来て人形劇カーニバル飯田の上演に参加しました。このようにして私の日本における人形劇人生が始まったのです。飯田は私の新しい人形劇人生の出発点であると言えるでしょう。

この場をお借りして私は宇野先生に感謝申し上げたい、現代人形劇センターに感謝申し上げたい！特にあなた方・飯田のみなさんに感謝申し上げたい！！飯田市が世界の人形劇の同僚に無数の相互合流の機会を提供したことに感謝申し上げたい。人形劇の普及と発展にあなた方は、とても大きな努力をし、とても大きな貢献をしました。私は一人の人形劇人として心から言います。ありがとう！！

今日、私は人形劇についてお話させていただきますが、このテーマはとても大きく、私のレベルにも限りがあり少し緊張しています。やはりこれも一つの交流の場といたしましょう。

私の知っていること、私の見たもの、私の感じたこととお話することで皆さんと私との研鑽の場としたい。どうぞよろしく申し上げます。



## 人形劇体験（経験）と中国と日本の人形劇について

私と人形劇には切っても切れない縁があります。人形劇には私の一生分の愛がつまっているのです。少年の頃から現在に至るまで、人形劇を熟練掌握するまで、人形を操り、人形と一体の生活を送ってきました。シンボリックな存在としての人形と、人と人形その関係性を探索すること、この二つの世界を遊歴することに私は面白さを見出してきました。

十数年来、私が体得した人形劇の“操演”技芸は他の演劇方式より多くの魅力をもっているといえます。私が愛する、この人形劇は私の一生の中で欠かすことのできない一部分であるのです。

ある人が私に尋ねたことがあります。

「あなたの父母は芸術関係のお仕事をされていたのでしょうか？」

いいえ、違います。私の父母はもともと農家の生まれでした。後に都市へ移住しました。1946年に私は山東省にある農家に生まれました。私の故郷はとても美しく、海辺まで約10分の距離にあります。私が3歳の時に、父親の仕事の関係で父母と共に山東省を離れ、大連という都市に引っ越しました。そこで今度は父親が“中華人民共和国対外貿易部”の職に就くことになり、家族全員で北京に引っ越しました。あの頃の私は人形劇とはどんなものか、全く知りませんでした。

おそらく私は人形劇と縁があるのでしょう。私が小学校に入学する時に“中国人形劇芸術劇団”が学校まで大型の人形劇の上演に来たのです。その素晴らしさに私は引き込まれ、とても興奮しました！あの時に観た人形劇が私にとって最初であり、その光景が脳裏に焼き付いたのです。

何年か過ぎ、私は小学校を卒業し中学校に入学しました。そこで、歌うことが比較的得意だったので、学校の“混声合唱団”に入りました。（放課後や学校が休みの時には合唱の練習をしました。）

二学期が終わる頃、合唱団の先生は私に紹介してくれました。

「今、北京のそれぞれの劇団が合同で学生の募集を行っているから、君ちょっと受けてみたら」

この誘いに私は興味をいだき、文芸関係の劇団なら面白そうだなと思いました。他のことは特に考えてはいませんでした。私は楽しみにしながら他の同級生と一緒に劇団まで行き、申し込みをしました。帰ってそのことを父母に伝えると、彼らの反対に遭いました。

「同意できない」

私は驚きました。

（家族の同意が無ければ、私はどうしたらいいのか？）

最後に私は“反逆”することを決め、劇団に試験に参加しました。

しばらくして私は人形劇団の入学通知書を受け取りました。嬉しくなって“入学通知書”を手を持ちながら、父母と相談しました。（その時、心の中ではとても心配していましたが）父親は“入学通知書”を見て私に尋ねました。

「おまえは本当に行きたいのか？」

私は答えました。

「はい！」（当時、私の決心は堅かったのです）

思いがけないことに父親はそれ以上に反対しようとはせず、いくつかアドバイスをした上で言いました。

「やってみろ、しっかりやるんだぞ！」

このようにして私は 1960 年 8 月に正式に中国人形芸術劇団に入り、私の人形劇人生が始まったのです。（当時はまだ 14 歳でした）

後になって私は知りました。当時、父親は私が勉学を継続することを望み、その後は彼と同じような“対外貿易”の仕事に就いてほしかったのだと。しかし父親に言われた話はずっと心の中に残っています。

### プロの人形演劇員として、どの場所で学んだか？何年学んだか？

“中国人形芸術劇団”は新しいタイプの人形劇団であり、周恩来総理の下、文化部において 1955 年に成立した国家人形劇団です。（これは東北の遼西文工団人形劇隊と北京の中央戯曲学院人形研究グループを合併させて成立した中国人形芸術劇団です。）

私が入団した頃はグループの中で、声楽・台詞・形態動作、などの演出の基礎訓練をしました。劇団は“伝統を継承するとともに、外国の先進的取組みに学び、新しい人形劇を創建する”ことを方針としていました。1961 年に私たち 6 名の団員は“湖南省人形影絵芝居芸術劇団”（現在では湖南省人形影絵芸術劇院と改名されています）に派遣され、そこで著名な人形演出の芸術家である李海軒先生の門下で一年間、人形演出の技巧を学びました。（この一年間は私の一生の中でも非常に重要な一年間でした。）

人形にはたくさんの種類があります。杖頭人形、堤線人形、布袋人形—

（中国では）杖頭人形には主に二つの異なる演出形式があります。

一つには、左手で人形を挙げるもの（俗称？西式）

一つには 右手で人形を挙げるもの（俗称湖南式）

私が学んだのは杖頭人形です。杖頭人形と堤線人形、布袋人形は人形装置と演出方法の上で大きな違いがあります。（一つには人形の形式です。）それは演技者が操縦する一つの命さお（頭と連動します）と二つの手さお（手と連動する）で演技され、これが俗称“三つのさお”となります。まるでおじいさんが杖をついているみたいなのでこの名がつけられました。

「杖頭人形の基本動作は、挙げる、指で撚る、歩く、の三つです」

私の先生はこのように言いました。とてもシンプルな三文字であります。この三文字は奥が深いです。この三文字とともに私の人形劇人生はあり、技を磨くポイントであり人形芸術の基礎なのです。私の修行はこの、挙、撚、歩、のシンプルな三文字から始まりました。

### 挙げる、とは。

劇団員は 1m60 cm から 1m70 cm の幕の後ろに立って人形を構え、人形は 1m60 cm から 1m7 cm の幕の上で上演されます。したがって基本的な勉強の第一歩は、挙げること。3 キロから 4 キロの人形を頭の上で、正しく真っ直ぐに 30 分間、安定させたまま維持させることが、人形劇団員に要求される最低基準です。

「へえ、これが挙げるということか！」

当時まだ十数歳だった私は、小さな人形も持ったことがなく、とても興奮しながら比較的重い人形を選びました。私たち6人の子どもの準備が整ったところで、先生はその方法を私たちに教えました。“開始”の合図の声で（今から振り返るととても感慨深いです。これが私にとって本当の開始であり、人形劇人生の開始であったのです。）私たちは人形を挙げ、先生は時計を見ました。1分が過ぎ、私たちは何事もなくお互いを見渡していました。どういうわけか、2、3分を過ぎると、これはとても5分も維持できないと、全身が緊張してきて腕のつけ根が痛くなってきましたが、歯をくいしばって維持しました。（感覚的にはとても維持できませんでした。）先生がやめ、と言ったところで休憩し講評しました。挙げた人形は左や右、前や後ろに倒したり、曲げてはいけません。まるで演劇員が舞台の上に立つようにまっすぐにさせるのです。先生の話は私たちにその正確な方法を把握させました。このようにして毎日、5分から10分へ、10分から20分へ汗水を流しながら繰り返していきました。腕のつけ根が痛くなくなり、疲れも無くなり、だんだん慣れてきてついに30分に達しました。このようにして挙げる、という勉強の基礎が出来上がったのです。

（後に私は自分の限界を試してみました。3キロくらいの人形を1m70cmの高さに水平に維持することが、2時間はできました。）

## 第二步は指で燃る、こと。

人形を挙げ演技するという。人形に演技をさせるためには、手を動かさなければなりません。ということは、指で燃ることは基本の勉強の中で極めて重要な一歩となります。

5本の指は脳のいうことを聞きません。動かなければならない時に動かず、動いてはいけない時に動きます。コンビネーションがうまくいかないのです。指で燃る、もむ、押す、引っ張るという動作の時にタイミングが合わないと（方法を間違えると）手さおが動かずに、手から落ちてしまうのです。このようにうまくいかない時もよくあり、私は焦りから涙を流してしまいました。すると先生がそれを見つけ、私の手を取り一つ一つ我慢強く説明をしてくれました。いやな顔をせず、一回一回手本を見せてくれたのです。私は先生の言うことを聞いて要領をつかみ、練習を続けました。昼食の時間になっても二つの手さおを手にしたまま先生の部屋に行き、教えを請いました。私は要領をつかむのがどんどん早くなっていき、とてもうれしかったのです。今でも覚えているのは、当時私が人形とお昼ご飯を持って先生の部屋に行き、先生に“指を燃る”勉強の成果を見せました。先生はそれを見た後、満足げにうなずき「いいぞ」と言い、すばやく彼の小さな鍋の中から大きな肉を箸でつかんで私の茶碗の中に入れてくれたのです。

その時、先生は私の手に二つの血マメが出来ているのを見つけ、私の手をとって尋ねました。「痛いだろう？」「痛くありません」私は手をひっこめて言いました。「先生、こんななんでもありません！」私はうれしくなって茶碗を抱えたまま練習場に戻りました。本当のところは痛くないなんてことはありませんでした。毎日、人形を挙げて指を燃る、何百回、何千回、手は擦れて血マメができましたが、痛くても練習を休むことはありませんでした。一回休むと、前にした練習が無駄になってしまうのです。だから私は我慢して痛くても

練習を続けていき、そのうち痛みもなくなってきました。手には分厚いタコができ、腕前は向上し、人形の道を歩んでいくための基礎が出来上がったのです。

### 第三步は歩く、こと。

それは人と人形との結合を高めることであり、上下の動きを協調させ、演劇員の動作の感覚を人形に伝えることがポイントとなります。これを始めたばかりの頃の私には数々の笑い話があります。例を挙げてみましょう。もともと人が歩き始める時には左、右、左といくのが自然でしょう。しかし人形を挙げてみると、どうやって足を踏み出したらよいかわからず、硬直した状態になってしまいました。その様子はまるで漫画の中の人のようです。人形の両手を左右に振り動かしてみると、なんとかぎこちなく足を踏み出すことができました。“歩く”ための近道なんてありません、小さな子供が歩くのを学ぶのと一緒に、左足を踏み出したいと思えば人形の右手を前に出し、右足を踏み出したいと思えば人形の左足を前に出し、一つ一つの動作を練習してその動作の規律を考慮したうえで、また人形のさおを指で擦ることも考慮し、上（人形）と下（演劇員）を協調させること。要求されるのは自然な動きなのです。

練習場は十何メートルの長さがあり、私たちは人形を挙げながら、練習場のここからあの場所まで、次はあの場所からここまで、というように一 行ったり来たりを繰り返し、一日にどれだけ歩いたか、どれだけの汗をかいたかわかりません。忘れられないことがあります。あの日私たちはすでに何度も行ったり来たりを繰り返し、たくさんの汗をかいていました。そこに先生が来て私たちを見てこう言いました。

“続けなさい”

考えてもみてください。誰がそこでやめることができるでしょう。みんなあえぎながら“1-2-1、1-2-1”のリズムで歩きました。先生は私たちを見ながら、やめなさいと言いません。それはやはり“続けなさい”ということなのです。これはまずいことになりました、大汗が滴り落ち、とめどなく地面の板の上に落ちていきました。汗水が流れ出て目の中に入り、目が開けられなくなりました。この時は誰もが“指で擦る”のに用いている左手で汗をぬぐうことは許されませんでした。みんなかわいそう、なすがりつくような目で先生を見ていました。それはまるで他のことは何も見えていないように、なりふり構わずでした。身体がもう崩れ落ちるような格好になり、歩きながら一方で冗談半分に次々と言いました。「先生もうだめです！」「先生もう手が動きません」「先生私はもう死んでしまいます」しかし、誰も“指で擦る”のも止めず、“歩く”のも止めませんでした。

先生は笑いながらそれでもゆっくりと言いました。「下ろしなさい」みんな動けなくなったように倒れ込むように地面の上に座りました。ある人は地面の上にしゃがみこみ、ある人は椅子の上にへばりつきました。私はしゃがみこみ地面の上に座りましたが、ある人はまた地面の板の上に横になっていました。腰をたたきながら汗をふき、私は言いました。「先生、あなたは本当に残忍ですね」何人かの仲間からハハハと大笑いが起きました。

先生も笑って言いました。「君たちもちゃんと続けていたじゃないか。覚えておきなさい。“舞台の上の一分間は、舞台の下の十年の練習に支えられている”この言葉をね。」

そのとおりだ！練習は志のある人間を裏切らないのです。私たちは基本的に基礎練習の要求をマスターし、基礎練習をきちんと固めてこそ、いかなる演出の役柄に応用させることを学ぶことができます。先生は私たちに小さな劇のワンシーンを演じさせてくれましたが、このことは今後の自分をつくっていくうえでの良好な基礎となっています。

### 何年学んだか？

人形芸術とは一つの総合性をもった芸術です。人形演劇員は多方面において学ばなければなりませんし、ただ伝統的な演出方法をマスターするだけでは十分とは言えません。

劇団に戻り、声楽、台詞、形体、さらには演出及び理論方面などのトレーニングを継続し、先生に人物役柄の表現方法（表現力）について学んだことは私にとって貴重な経験です。

三年の勉強を経て、正式に演劇員となりました。劇団で私たちは青年隊を成立させ、私の演劇員生涯が始まりました。

私たちはまた途切れることなく他の分野の芸術にも向かっています。国外の芸術家に学び、彼らの風情を理解し、彼らの良いところを吸収しています。

中国の人形劇団に在籍した三十年において、私は絶え間ない学習と実践の中で自己を豊かにし、自己を向上させてきました。男女老少、大小の伝統的、または現代的な何十という人形劇の役柄を私は演じてきており、それらは業績として残っています。あわせて人形演劇員の育成方面にも一定の貢献をしています。1974年と1975年の国慶節では当時の周恩来総理の招待で国宴に二度参加しました。

### 一級演劇員になった時の心情はどうであったか？

1988年3月、私は国家一級演劇員の職稱を得ました。あわせて専門職務証が発行されました。

当時、心の中ではとてもうれしかったです。これは文芸界にとって最初であり、とても光栄なことです。国家が私を認めてくれたのです。多くの同僚が私のためにお祝いをしてくれ、私の学生がパーティーを催してくれました。嬉しさのあまり、私はやる気がみなぎり、人形劇の鍛錬にもより力が入りました。

### 日本に来た目的

私が最初に日本の人形劇に触れたのは、北京で大阪の人形劇団文楽座が中国友好交流で上演した時であり、私は彼らの演目にとっても満足しました。実際のところを言えば、演目が始まったばかりの時は(文楽の演じ方に)違和感を覚えました。人形の後ろに三人（演劇員）がいて、遮るものが何もなく、人形を操作する時はその動作が丸見えで、背景を邪魔しているように見えたのです。ただ劇を見ながらその中に入り込んでいくうちに、視覚にも変化が生まれ、背景の邪魔も二の次になりました。人形が着ている衣裳の色鮮やかな美しさを発見しました。

作りがとても精巧でおろそかなところがありません。動作はきめが細かくてまるで本当の人間と一緒に、演出に非常に感動しました。私の人形表現形式とは異なりますが、それは私

に確かな深い印象を残しました。私に強烈に新鮮な感覚を引き起こさせたのです。

本当に日本の人形劇がわかり始めたのは、1988年に中国人形劇団が日本で開催された第15回国際人形劇フェスティバルに参加した時からです。あの時のフェスティバルはとても大きなものでした。東京と名古屋と飯田の三つの会場に分かれて行われたのです。聞くところによると、上演参加した劇団が最も多かった回であり、また国外から参加した劇団が最も多かった回であったそうです。

当時、招待された中国人形芸術劇団と中国の一つの上演グループの人数は合わせて20人あまり。二つの会場で私たちは上演を行い、さらに大小さまざまな違った形式の演目（外国のものを含めて）を観覧しました。私は、ぼおっと見とれて、まばたきをすることができませんでした。

ある一つの面白い出来事があります。私たちは名古屋で丹下進先生とむすび座と知り合いました。（彼らは私たちの舞台棚の準備を手伝ってくれました）

彼らが上演したのは《悟空誕生》、私たちが上演したのは《大？点空》、二つの劇団が同じ飯田市で、一つの劇場で、同じ日に（午前と夜に分かれて）同じ「西遊記」の作品を上演したのです。なんとタイミングの良いことでしょう。

人形形式の上から言えば、私たちのものは“杖頭人形”で、1 m70 cmの幕の後ろで上演される、閉ざされた厳格で濃縮されたものです。むすび座の人形は、文楽のようであって文楽ではない、おもちゃの人形のようにあっておもちゃの人形ではない。それは自己で創り出された新しい一つの演出形式でした。開放的で、のびのびしていて、自由で、大きな広がりを持った表現力で、大きな筆で描くように空間を利用していました。

二つの劇団が全く異なる演出形式で、同じ一つの《西遊記》の中の1シーンを上演しました。表現から生まれた視覚効果は違いますが、どちらも観客から熱烈な歓迎を受けました。私はその中から多くの新しいことを学びました。二つの劇団はお互いに勉強し合い、友人になりました。

このフェスティバルは私たちに、たくさんの中国では見ることのできない新しいものを感じさせてくれました。面白い人形劇がとても多かった。私たちは皆で止めどなく議論をし、とても興奮していました。中国の著名な布袋人形の演出芸術家・楊峰先生（国家一級人形演劇員）と私は意気投合し、人形劇を学ぶために来日するという考えが生まれました。この考えを宇野小四郎先生に話したところ、宇野先生は私たち二人を受け入れることに同意してくれました。しかし、さまざまな原因があって楊峰先生はアメリカに行ってしまう、そして私は単身日本に来たのです。



## 譚志遠(タン シェン)経歴

譚志遠 男 国家一級演員

中国劇作家協会会員

中国人形影絵芸術学会 理事

北京市文化局 芸術分野における中級職務審議委員会委員

元・中国人形劇団副団長

北京市対外友好協会理事

1960年	中国人形劇団に試験に合格して入団、人形演出芸術を学ぶ。あわせて中国の著名な人形演出芸術家・李海軒先生の門下で伝統人形演出を学び、成績は優秀であった。
1965年	エジプト、イラク、パキスタンに上演に赴いた。上演期間は当地の民族舞踊を学び、あわせて人形形式を用いた上演をし、民衆の熱烈な歓迎を受ける。
1972年	児童人形映画《木偶小歌舞》を撮影する。
1972年 ～1975年	北京市芸術学校において人形演出専門の教員を担当した。これは劇団が芸術学校において最初に行った人形演劇員の養成訓練である。育成訓練をした人形演劇員ということになり、今ではこれらの人形演劇員の大部分は劇団のリーダー及びその中心人物になっている。
1973年	大型現代人形劇《草原紅花》(草原小妹妹)において主演の“姐”として名を連ねる。
1977年	天津市の人形劇団の成立の仕事に参加し、劇団の第一陣の劇団員の養成の責任者をする。あわせて劇団の第一回目の劇目《孫悟空三打白骨精》の演出をした。
1978年	ユーゴスラビア演劇フェスティバルに参加し、大型人形劇《孫悟空大鬧天宮》を上演した。孫悟空を担当した上演者は、この劇で最高芸術賞と児童選定賞を獲得した。(この賞は児童の分類では最高の賞である)
1980年	タイに赴き《大?天空》を上演する。親王の心のこもった招待を受けた。
1984年	大型神話劇《長寿草》に参加し、主演を担当する。この劇は北京市文化局の新劇目公演で一等賞を獲得した。
1988年	日本に赴き、第15回国際人形劇フェスティバルの上演に参加した。同年の末に中国人形劇団において先進的な仕事をした者として選定される。
1989年	大型神話劇《黄風洞》に参加し、この劇は中国第一回芸術フェスティバル上演記念賞を獲得する。
1990年	オーストリア、ハンガリーに赴いて、オーストリアで行われた国際人形フェスティバルに参加する。
1990年 ～1994年	日本に現代人形演出芸術の研修に赴き、あわせて名古屋市のみずび座人形劇団の招聘を受ける。演出の仕事に参加し、あわせて《嬉春打虎》、《県官戯獅》、

	《寒冷的??》、《拉大堤琴的郭修》等の劇を上演した。
1994年	日本において譚志遠劇場が成立し、人形劇の脚色監督、創作、上演をする。
1997年	日本の人形劇《石頭馬》の副監督を担当する。
1999年 ～2000年	中国人形芸術劇団の演出技術指導を担当する。あわせて日本に多く赴き《石頭馬》劇のトレーニングの仕事に参加する。
2000年 ～2003年	日本の名古屋の人形劇団の招待を受けて、《悟空誕生》と《天竺之道》の副監督を担当する。あわせて人形劇団の《石頭馬》と《悟空誕生》の人形劇を通して北京で積極的に友好交流活動を計画した。陝西省の民間芸術劇院と日本の香川県の人形劇団の相互訪問交流を計画し、深?市文化局、深?市銀河影絵劇団を日本の香川県で行われたアジア太平洋国際人形芸術フェスティバルに参加させることを計画した。
2004年	北京において北京芸無限人偶芸術劇団の成立を計画準備し、あわせて自ら団長の職を担当した。
2005年 ～2006年	中国中央電視台の子ども向けチャンネルとの協力で、多くの人形番組で監督を務めた。

#### 質疑応答

#### 40年余りの上演という実践と監督の仕事の中で、譚志遠先生の主要な創作劇目は？

伝統劇目《?馬》、大型神話劇《猪八戒背媳婦》、《孫悟空大鬧天宮》、《長寿草》、《劍峰英豪》、大型児童劇《草原紅花》、童話劇《野天?》等、何十もの劇目を含む。

主演を担当した映画やテレビの劇目は《大林和小林》、《成語故事》、《小鈴?続集》を含む。

長年の教学実践および多くの人形劇団の芸術指導と演劇員の育成を通して、演劇員育成の豊富な経験と方法を蓄積され、それによって“杖頭人形演出”の教材が書かれた。この教材は今では北京人形劇団、天津人形劇団など多くの人形団体において教学の仕事に用いられている。1987年12月北京市文化局が招聘した初めての芸術フェスティバルの人形劇の系列において、中級職務審議委員会委員となった。中国の人形劇団における中級職務審議の全ての仕事に参加した。1988年3月北京市科技局、北京市文化局によって組織される高級専門技術審議委員会の審査によって、国家一级演員の職稱となることに定まった。あわせて専門職務証書が発行された。

\* 福島達也

愛知大学現代中国学部卒業

上海復旦大学国際関係与公共事務学院国際政治専攻修士課程中退

飯田日中友好協会副理事長・青年委員長

\* 上記、飯田女子短期大学第37回公開講座「人形劇は世界をつなぐ—譚志遠氏が語る、中国の人形劇・日本の人形劇—」2011年11月19日(金)飯田女子短期大学視聴覚室で行われた講演を小池・松崎が編集した

## 報 告

松崎行代

平成 23 年度飯田女子短期大学公開講座として、11 月 19 日、中国より譚志遠（タン シェン）氏を講師にお招きし、「人形劇は世界をつなぐー譚志遠氏が語る、中国の人形劇・日本の人形劇ー」と題し、講演と人形劇の実演をしていただきました。

譚氏は、1988 年に東京・名古屋・飯田で開催された第 15 回ウニマ国際人形劇フェスティバル（飯田では世界人形劇フェスティバルとして第 10 回人形劇カーニバル飯田と併催）に招聘された際、「西遊記」の競演でステージをともにした人形劇団むすび座（愛知）の人形劇に衝撃を受け、当時中国人形芸術劇団副団長そして中国国家 1 級人形劇演員の称号を持ちながらも、副団長の地位を投げ打って来日し、故丹下進氏に師事して日本の人形劇を学ばれました。しし丸カンパニーの児玉俊介氏との「セロ弾きのゴーシュ」（木村繁氏：演出）を思い出される方も多いのではないでしょうか。

3 時間たっぷり時間をとった講座のなかでは、猪八戒や孫悟空が化けた美女の人形を用いて、自身が 14 歳で人形劇団に入団したときに受けた人形操作の基本練習を、実演を交えながら紹介してくださいました。中国の棒遣い人形“杖頭人形”の基本動作は、「挙げる」「指で捻る」「歩く」で、この 3 つの基本動作がすべての演技の基になっているそうです。「挙げる」とは、3~4kg の人形を 1m70cm の舞台の上に乗っすぐ立たせて出し続けること。「指で捻る」とは、人形を演じさせるため、人形の手についた差し金を器用に動かして操作すること。「歩く」とは、演じ手の動作の感覚を人形に伝え、演じ手と人形が身体の上下の動きを強調させて歩くこと。譚氏は、かつて先生から言われた「舞台の上の一分は舞台の下の十年の練習があつてこそ」という言葉をずっと胸に秘め稽古を積んだそうです。

最後に見せてくださった水袖の人形は、舞台の前で演じてくださいました。宙になびく水袖の優雅な動き、切れ長の目の絶世の美女のなまめかしさ、そしてその美女と一体化して人形を操る譚氏の身体の柔らかな動きに、会場の受講生は息をのんで見入りました。

また、受講生に人形を実際に持たせながら杖頭人形の仕組みを解説していただき、講座に参加したみなさんは大満足の様子でした。

（日本ウニマ「人形劇のひろば」107 号 2011 年 12 月発行：初出）

## 当日配布資料

### 譚志遠氏講演会

#### 人形劇は世界をつなぐー中国の人形劇・日本の人形劇ー

資料翻訳・通訳：福島達也

#### 第 I 部：講演

##### 1. 中国の木偶劇(人形劇)の起源と発展について

木偶劇は傀儡劇とも呼ばれ、日本では人形劇と呼ばれています。木偶劇であろうと、人形劇であろうと、現在において一つの世界をもった芸術であるといえます。人形劇は多くの国に存在し、一部の国ではすでに相当の発展をしています。言うまでもなく、それぞれの国の人形劇芸術はその土地で生まれその土地の中で育まれてきました。それはすでに数百年の発展を経ており、自己の民族の土壌の中で深く根をはり、民族の乳汁を吸いとり、その民族の風格を備えた芸術的特長を形成してきました。

これは数百年の発展を経て、ひいては千年に上る、とても大きな歴史的スパンであります。では人形劇はどのように形成され、どのように発展してきたのでしょうか？

中国では古くから使われている言葉に“刻木為偶、以偶為劇”(※木を刻むことで木偶となり、木偶を以って劇となる)というものがあります。この言葉は人形劇の特徴、及びその制作の2つの段階をわかりやすく言い表しています。現在から見るととても簡単なことのようにですが、しかしながら人形劇制作が生まれ、そして上演されるまでの変化のプロセスには、かえってそれ相当の長い歴史的過程を経ています。この変化のプロセスの中で人形劇はまず、一つの芸術品として史書に名を残しており、その後ゆっくりと変化していき芸術として上演されるようになりました。

##### ・木偶の誕生

木偶(傀儡)が生まれたのは紀元前 17 世紀初頭から 11 世紀頃(商代)までさかのぼります。

奴隷社会・原始社会では、生きている人間を殉葬させる野蛮な行為があり、それは長期にわたって継続され一種の風俗となっていました。奴隷主が奴隷を殉葬させる時には、副葬品としてさらに冥器などが必要とされました。“俑”(※古代、陪葬に用いられた土製の人形)はその中の一つです。これは草束で制作されたもの、土製・陶製・木製のものもありました。この人形物体である“俑”は、死者の奴隷や“従衛”の役割を負わされていました。

しかし、次第に生産力のレベルや社会文明の程度が向上するにしたがって、多くの奴隷主が奴隷の生産上の価値を認識するようになり、生きている人間の奴隷ではなく人形の“俑”を代わりに用いることへ変わっていくことになるのです。

・漢代（前 206 年～220 年）

西漢には「木楽俑」、「木歌舞俑」、「工芸」があり、その種類と造形は以前より大きく進歩しました。これが、最初の木偶となります。

このように、中国の木偶(人形)芸術は“俑”を源としています。そして、木偶と直接関係しているのは木俑で、その発展はおおよそ三つの段階を経ています。

1. 服持木俑、2. 木楽俑、3. 活動することのできる木歌舞俑 です。

それがさらに発展し出現したのが“太鼓をたたき、踊る人形”で、この時すでに「傀儡する」という言葉が見られたとおり、木偶は演劇の道具となりました。そして人形は一つの工芸と演劇の変化の過程を経て、祭儀における慶事や娯楽活動の一つとなりました。

木偶の発展において、そのおもしろさのある故事の中に見出すことができます。

『平城の包囲を解く』

漢の高祖、劉邦が匈奴(漢代の北方民族)の酋長・冒頓によって平城で窮した際、知に長けた臣・陳平によってその危機を回避した、というお話。

*冒頓は好色として知られ、彼の妻はそのためいつも嫉妬心を抱いていた。それを知っていた陳平は機転を働かせ、色彩で装飾した木偶に化粧をして美女に仕立てあげ、城の上でひらひらと踊らせた。冒頓はそれに目が釘付けとなり、彼の妻はとてもしもやきをもちをやいた。彼女は城を破った後に、夫が“美女”を自分のものにするに違いないと思い、冒頓に撤退を迫った。そのため劉邦はついに平城の包囲を解いた。*

こうして、木偶は敵を撤退させた功績で、宮中に大切に保管されることになったということである。

中国の木偶劇は次第に形成されていきました。その普遍的な観点は“源は漢にあり、興ったのは唐にある”であるといえます

・唐(618－896 年)

唐代は非常に重要な一つの時代です。この時代に中国と外国の経済的、文化的な交流の窓口が開かれました。唐代の都市は繁栄し、商業は盛んになり、経済が発達、文化も異常なほど繁栄し、人形劇は文化芸術の中で欠かすことのできない一つの大衆文芸形式になりました。歌舞戯、参軍戯、争闘艶などでは、機械木人が酒を飲んだり、歌を歌ったり笛を吹いたりして、人形の演技と人形の製作が完全に統一された仕上がりになってました。

・宋元時代（960-1279 年）

人形劇はますます盛んになっていきました。

郷村の中では、社日(昔、土地神を祭る日)や作物の収穫が豊富な時に、人形劇を演じる風俗があり、その目的は邪気や災いを払いのけ、幸福と平安を祈ることにありました。

#### ・明清時代

中国の人形劇は新しい発展の時期に入りました。

民間の人形劇が、その土地において花ひらく状況となり、地方において人形劇が次々と興隆していき、それぞれ異なった風格の人形劇の流派が生まれました。

#### ・清代

人形劇は他の演劇と同じように、宮廷で供えられることで自己の発展の過程を歩んできました。それはいくぶん豪華になり、曲に記号がつけられるようになりました。その軽やかで精巧な作りは宮廷内の妃や皇族が鑑賞し享樂するのに相応しく、したがって宮廷や王府において芸人は彼らのために長期にわたって上演しました。

### 2. 中国の木偶戯(人形劇)の種類

歴史に記載されている人形劇の分類は、次の通りです。

提線木偶戯、杖頭木偶、布袋木偶戯、鉄枝木偶戯、扁担戯、肉傀儡、菓発傀儡、水傀儡、清楽傀儡、盤鈴傀儡(見たことがなく、すでに途絶えている)、求飾、機械木偶(すでに途絶えている) 水飾、機械木人が演じる神話や伝説、三国志など。すでに途絶えたものもあります。現在も残っている主要なものは、提線木偶戯、杖頭木偶戯、菓発傀儡、川北大木偶戯 です。

### 3. 中国において、人形劇を上演する目的

それは娯楽を主としています。多くの学者は演劇芸術の源は宗教儀式にあると認識しており、それは適切であるといえます。しかしながら、中国の木偶芸術は、宗教儀式と密接な関係にあり、それは同時に土や木で作られた人形と関係しています。ただし、人形劇の上演が宗教を目的としているかは明らかではありません。

人形劇の発展の歴史から木偶をみると、その出現は祭儀を目的としており、後にそれは鑑賞を目的とした慶事や娯楽活動の一種として移り変わっていきました。木偶はしだいに単一の技芸演技から、人形劇へと移り変わっていき、娯楽を目的とした上演も珍しいものではなくなっていき、全国で人形劇団が成立し演劇芸術の一つとなっていくのです。それは祭儀を目的とした上演からの脱却でした。全国の人形劇団は娯楽性をもった上演で人民大衆のために服務するようになったのです。

しかし散らばった民間の農村の芸人が婚礼儀式や、誕生日会において祝賀の意味で人形劇を上演することもありました。改革開放以後、とりわけ体制改革後は多くの民営の独立資本の小劇団や、個人で上演する人が現れてきて、葬儀祭儀、婚礼式典、誕生日会などの場で上演するようになってきました。

### 4. 中国の現代人形劇について

歴史的にみると、人形劇はいくぶん豪華になり、曲には記号がつけられ、一種の特殊な形態となりました。高度で深い木偶演技技巧は、大衆の中での普及は比較的難しいと言えるでしょう。一部の新興の人形芸術家は前世紀の30年代に、人形芸術の改革に着手し、この古

くからある芸術に新しい生命を注ぎこみました。現代化を利用し、新しい歌劇形式を取り入れた児童教育の物語の改革伝統劇は、人形芸術のテーマと表現の空間を広めました。

これが新興の人形劇の始まりです。40年代の一部の大都市では、前後して新しい人形劇社が成立しました。創作し上演するものは一般市民と関係する演目でその影響は拡大していき、新中国の人形劇の発展の良好な基礎を築きました。他にも多くの農村や一部の都市で、古い人形劇演目や戯曲型の伝統は続いていきました。

新中国成立(49年)以後、中国の人形劇芸術の発展はすさまじい勢いで新しい時期に突入しました。各地の人形劇団が組織、拡充されて、中央と地方において常に相互研究され、コンクールを行うことで、とても大きく人形劇の社会的地位と芸術レベルが向上されました。

## 5. 上演する場所

- ・ 劇場：劇場がある劇団は劇場で上演し、小学校や幼稚園にチケットを売って呼び込みます。
- ・ 学校：以前は学校において上演することは比較的容易だったが、今では中に入ることは難しい。
- ・ 幼稚園：何年か前に外部の人間が幼稚園に侵入して傷害事件を起こしたことがあり、子どもの安全を保障するため、通常は上演の連絡などは受付けない。
- ・ 社区：一部の一流の社区組織の娯楽活動の会において人形劇を上演することがある。
- ・ 観光地：ホテル側で様々な芸術の上演が行われ、人形劇も参加する。
- ・ 縁日：(春節の縁日)において人形劇は全て参加しています。

## 6. 教育方面の影響について

ある劇団では故事成語など教科書に関係する劇を用意して、学校で上演しており児童生徒にとっても好まれています。人形を用いることで具象的・直接的に視覚で捉えることができるため、理解がしやすいといえます。劇場で童話の人形劇が上演される時には、学校側が子どもたちを引率して劇場で鑑賞させます。ある学校では子どもたちにその感想を書かせます。子どもの知育教育にとって補助的な作用があるといえるでしょう。(ただしそのような機会はとても少ないです。)

また、大学で行われる“南北木偶戯対話演出周”では著名な監督や教授と人形劇界の人がともに人形劇について研究討論しています。

## 7. 人形劇の文化・芸術方面における影響

50年代に各地でしきりに上演されたことで、他のさまざまな舞台芸術との交流が絶えず行われました。それはそれぞれの芸術をさらに発展させることにもつながりました。

京劇を含む舞台芸術の業界用語の中には、人形劇と関係するものがあります。例えば、役者が舞台を下りる時にくぐる門は、左に向いてくぐってはならず、右に向いてくぐらなければなりません。この時に左を向くことを“絞線了”といいます。役者が舞台を上がる時にくぐる門は右を向いてはならず、左を向かなくてはなりません。この時に右を向くことは“咬線

了”といます。これは戯曲の役者が上演する時の動きのルールであり、一般的にはこれに違反することはできません。この“絞線了”という言葉はどこからきたのでしょうか？ それは提線木偶からです。もし提線木偶が舞台を下りる門をくぐる時に右を向いてしまえば、人形の糸と板の糸の線が絡まってしまい、上演が台無しになってしまうからです。

## 8. 私の人形劇人生 ※講演録参照

### 第Ⅱ部：質疑応答

\*会場の皆さんと譚先生とのやり取りで、さらにお話を広げたいと思います。

どうぞお気軽に、ご感想やご質問をお聞かせください。

(休憩)

### 第Ⅲ部：人形劇上演

#### 《猪八戒背 婦》シーン 枕頭木偶

猪八戒は師に同行して天竺に経典を取りにいくつらさに耐えられなくなり、ある日、托鉢に乗じてお腹いっぱい食べて飲んで、逃げようと思った。孫悟空は猪八戒の企みに気がつき、女の子に化けて猪八戒を弄ぶ。

\*人形の仕組みや操作方法についての解説、美しい女性の人形も見せてくださいます。